

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が確認されています

平成29年11月に実施した調査では、ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は5.5%（県平均）でした（図1）。近年の中では若干低い数値ですが、県北部の数値は高まっています。また、県南部では依然として10%を超える地点が確認されています。

越冬世代幼虫密度は12.0頭/10㎡と低い状況ですが、今後の気象条件によっては、来春のヒメトビウンカ第一世代幼虫の発生量が多くなる可能性もありますので、注意が必要です（表1）。

ヒメトビウンカはイネ縞葉枯病を媒介する害虫で、再生稲やイネ科雑草に寄生し越冬します。そのため、現在行うべき防除対策は再生稲発生ほ場の耕起と畦畔管理です。速やかにほ場の耕起等を行い、次年度の発病を抑えましょう。

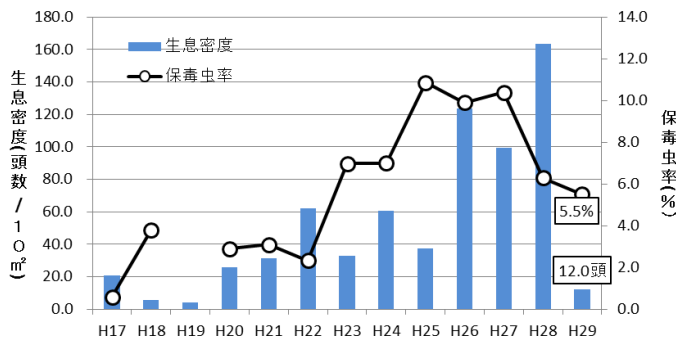


図1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び生息密度の推移



写真1 再生稲に寄生するヒメトビウンカ



写真2 再生稲で発病した縞葉枯病

表1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

越冬世代		(単位:%)		
地点名		H27	H28	H29
県北部	大田原市戸野内	5.2	3.1	1.0
	大田原市蛭畑	5.2	2.1	3.1
	大田原市親園	4.2	5.2	5.2
	那須烏山市滝田	4.2	4.2	5.2
	さくら市蒲須坂	1.0	0.0	4.2
	高根沢町花岡	2.1	2.1	5.2
	県中部	真岡市青田	24.0	9.4
宇都宮市横山町		7.3	6.3	3.1
宇都宮市雀宮町		19.8	5.2	7.3
上三川町上三川		32.3	10.4	7.3
鹿沼市酒野谷		8.3	3.1	6.3
県南部	下野市小金井	13.5	10.4	11.5
	下野市絹板	11.5	10.4	13.5
	小山市小葉	7.3	2.1	1.0
	小山市石ノ上	16.7	16.7	8.3
	壬生町助谷	12.5	11.5	3.1
	栃木市惣社町	2.1	6.3	4.2
	栃木市大平町真弓	21.9	5.2	0.0
	栃木市藤岡町富吉	5.2	9.4	9.4
	佐野市堀米町	10.4	4.2	6.3
足利市上渋垂町	3.1	6.3	2.1	
県北部		3.6	2.8	4.0
県中部		18.3	6.9	6.5
県南部		10.4	8.2	5.9
平均値		10.4	6.3	5.5

注: 検定サンプルは11月中～下旬に、水田畦畔や水田内の雑草から採取

検定方法: DAS-ELISA法 検定数: 96頭/1地点口

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。